

製品名: ASPP2 (7U15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07230**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.26mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:200-1:1000
分子量	126kDa

抗原情報

遺伝子名	TP53BP2
別名	53BP2; ASPP2; p53BP2; PPP1R13A; Tp53bp2;
遺伝子 ID	7159.0
SwissProt ID	Q13625
免疫原	ヒト 53BP2/ASPP2 の合成ペプチド

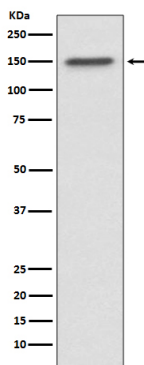
背景

相互作用を介してアポトーシスと細胞増殖の制御において中心的な役割を果たす調節因子。生体内で TP53 の DNA 結合とプロアポトーシス遺伝子のプロモーター上での転写活性化機能を増強することにより、TP53 を制御する。APPBP1 が NEDD8 を CUL1 に結合させる能力を阻害し、それによって APPBP1 のアポトーシス誘導能力を低下させる。G2/M での細胞周期の進行を阻害する。そのアポトーシス刺激活性は、DDX42 との相互作用によって阻害される。TP53 (PubMed:12524540) などのタンパク質との相互作用を介してアポトーシスと細胞増殖の制御において中心的な役割を果たす調節因子。生体内で TP53 の DNA 結合とプロアポトーシス遺伝子のプロモーター上での転写活性化機能を増強することにより、TP53 を制御する。NAE1 が NEDD8 を CUL1 に結合する能力を阻害し、それによって NAE1 のアポトーシス誘導能を低下させる。G2/M 期における細胞周期の進行を阻害する。そのアポトーシス刺激活性は DDX42 との相互作用によって阻害される。

研究分野

-

画像データ



MCF7 細胞溶解物における ASPP2 発現のウェスタン ブロット分析。